※令和４年度以降入学生用

学校番号	217

令和８年度　理科

教科	理科	科目	物理基礎	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高校物理基礎　（実教出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

物理基礎の授業では、発展し続ける物理学の一端に触れ、身の回りの物理現象について科学的思考をする力を養います。

２　学習の到達目標

（１）物理の法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
（２）観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
（３）身の回りの物理現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度や、エネルギーに関する問題など社会問題について考える態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・物理現象や物理法則について、理解し知識を身に着けている。 ・物理の用語、記号、単位、公式といった基礎知識を身につけている。 ・物理の公式を適切に用いて問題を解くことができる。	・授業で身につけた知識を土台として、物理現象について考察することができる。 ・事前に仮定を立てて実験に取り組み、実験結果について考察し、レポートを作成することができる。 ・物理の知識を用いて、問題演習に取り組み、正解を導くことができる。	・毎回の授業の中で、知識を身につけようとする態度が見られる。 ・計画を立てて学習に取り組むことができている。 ・身の回りの物理現象や、エネルギーに関する社会問題について、主体的に考えようとする態度がみられる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	物体の運動	運動の表し方 力と運動の法則	a：速度や加速度といった物理量についての知識を身につけ、運動を物理学的に理解できる。 b：運動を解析し，量的な関係をとらえることができる。 c:身につけた知識を用いて、日常生活にかかわりのある物理現象について考察する態度がみられる。	・小テスト ・定期テスト	・小テスト ・定期テスト ・実験レポート	・協働学習への取り組み ・小レポート ・授業内での発問への回答
2学期	エネルギー	運動とエネルギー 熱とエネルギー	a:エネルギーや熱量といった物理量についての知識を身につけ、エネルギーに関する法則を理解する。 b:エネルギーの観点から、運動や温度変化といった物理現象について考えることができる。 c：身につけた知識を用いて、日常生活にかかわりのある物理現象について考察する態度がみられる。	・小テスト ・定期テスト	・小テスト ・定期テスト ・実験レポート	・協働学習への取り組み ・小レポート ・授業内での発問への回答
	波	波の性質 音と振動	a: 波の性質について理解する。 b: 波長や振動数といった、物理量を用いて、波動について解析することができる。 c:学習した内容を用いて、音波など、身の回りに波動について考察する態度が見られる。			
3学期	電気	物質と電流 磁場と電流	a:静電気力など、電磁気学の基礎となる知識が定着している。 b:電流や、電磁誘導といった現象について考察することができる。 c:日常で用いている電気について考察する態度が見られる、	・小テスト ・定期テスト	・小テスト ・定期テスト ・実験レポート	・協働学習への取り組み ・小レポート ・授業内での発問への回答
	物理と社会	エネルギーとその利用	a:エネルギーの変換と保存の法則について理解している。 b:発電を中心として、社会に関わりのあるエネルギーについて考察することができる。 c:環境問題や原子力発電の扱いといった社会問題について物理の知識を活用して考える態度が見られる。	・小テスト ・定期テスト	・小テスト ・定期テスト ・実験レポート	・協働学習への取り組み ・小レポート ・授業内での発問への回答

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度